

新羅王碑

竹ヶ花集落の裏山にある碑。寺泊へ漂着した新羅王一族が、後年この地に移り住んだものといわれ、没後も地元民が手厚く墓守りをしている。

明治35年、碑を新たにするに当たり、長善館主（栗生津）の鈴木彦岳が碑銘を撰書した。

問う是れ誰氏の室ぞ 曰く新羅王の碑なり 邈^{ばく}たり厥^その功績

姓字知るべき靡^なし 昔聞く王漂泊す 北越寺泊の湄^{ほとり} 異域に長恨を飲み

終を茲に卜す 里民性撲実にして 春^{やく}禱^しに明燊を供う 風雨幾多載なり

碑字^{ここ}聿^{しよつき}に触虧す 明治壬寅の歳 再修して前思を紹^つぐ 今より招魂の典

千秋復^また萬斯。

